

今井すまいるだより

今井地区まちづくり協議会

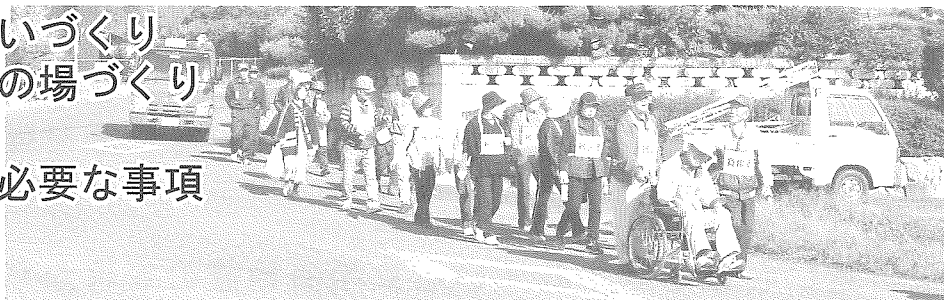
第3号

今井地区まちづくり協議会
広報部会制作
平成25年11月25日

今井地区まちづくり協議会の目的

- 地域に居住する人の生きがいがづくり
- 地域住民のコミュニティの場づくり
- 地域の課題の解決
- その他本会の目的に必要な事項

今井地区まちづくり協議会 規約より抜粋



H25. 10. 27防災避難訓練

●防災資機材庫設置

24年度で4地区に防災資機材庫を設置し、さらに本年度は今立③、園井②、大峠①、広浜①の地区に防災資機材庫を設置しました。設置は各地区多くの住民自ら搬入組み立てを行い設置しました。

防災資機材庫設置事業を終えて地域の方は「業者にお願いして設置するのは簡単だが、苦勞して設置した分“自分たちの防災資機材庫”として愛着がもてた。」「日頃挨拶、寄り合い程度の付き合いだが、設置工事を通じて、違った意味での交流ができたと思う。」など世間話が飛び交い楽しみながらの作業でした。防災資機材庫の中には、ヘルメット・消火器・懐中電灯・ロープ・スコップ・救急医薬品・毛布・軍手・ブルーシート・カセットコンロ・ガスボンベ・土のう袋・タオル・乾電池・折りたたみ式リヤカー・他、多くの資機材を装備しています。今後、各地区で行う防災避難訓練に活用していただきます。



今立③地区



各地区の皆さんでの設置作業

広浜①地区



大峠①地区



園井②地区

●園井地区出前講座

園井地区で5月30日（木）笠岡市まちづくり出前講座のご案内をしたところ31名の参加を得て充実した出前講座となりました。震災・津波に偏りがちですが、その他に台風・水害危険地区のチェック等、質問が相継ぎました。特に救急車の出動では、笠岡消防署管内で、天災等のない現在でも年間3,000件以上の出動があります。災害の場合、まず、自分の身を守り、次には家族、隣り近所、地区住民と徐々に拡大すること、特に1人住まい、弱者の安全確認と相互の助け合いを重点に行動すべき考えを持つのが妥当ではないだろうか。大きな災害の時は、市、消防署の救援は全市民対象なので災害が少ない地区にはどうしても救助が遅れがちです。我々が常日頃持っている思いやりと助け合いで、地区防災組織の設置と防災活動を継続して行い、被災の時は、まず地域の我々の手でお互いの助け合いが大切なことを学びました。



笠岡市・消防署の方々からの説明



質疑が多くされました

●今立②地区出前講座

6月30日（日）午前10時より今井公民館2階会議室にて笠岡市危機管理課、笠岡消防署の方々を講師にお招きし防災出前講座を行いました。DVDにより、災害時の防災、減災の説明をしていただき、自助・共助・公助の大切さ、特に共助に付いて地域の安全・安心の為にも日頃より近所付き合いの大切さを教えていただきました。

笠岡消防署の河田様より「防災出前講座も意識高揚になりますが、“百考より一行”で避難訓練をたくさん経験する事がもっと大切な事です。」という話に、なるほど、と思いました。

また、防災グッズ、非常食糧、タンスや食器棚などの転倒防止といった説明がありました。次回には非常時のとき、市・県への連絡方法とかを教えてくださいたいと思いました。



子どもたちも参加しました



53名の参加者が熱心に聞かれました

●消火体験「子ども消防士あつまれ！」

8月18日（日）午前10時30分より12時頃まで笠岡消防署員と今井消防団の協力指導のもと、小学校校庭と本谷中竹池の2ヶ所で消火・放水体験を実施、小学生と保護者、消防団員計約120名が参加した。

低学年はまず、実際に燃える火を粉末消火器で大人が消火するデモンストレーション後、保護者と水消火器での消火体験を行った。

高学年は中竹池に移動し、消防ポンプによる放水体験を実施した。参加した児童たちは「大きくなったら消防団に入りたい。」「放水の圧力で体が振られた。」など感想を語っていた。



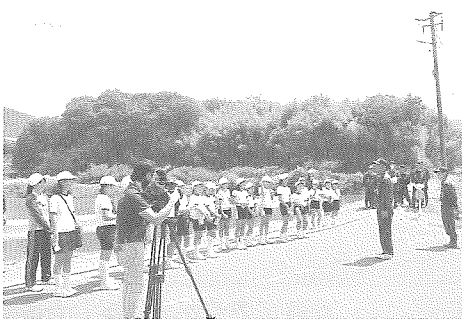
消防ホースが重い！



上手に消せるかな？



今日の消火体験とてもよかったです！



さあ！放水体験を始めましょう！



防災資機材庫の中身を大公開！！

●宝探しアドベンチャー ～防災資機材庫を探せ！～

7月20日～8月17日の夏休み期間中、子どもと保護者を対象に防災資機材庫をめぐる「宝探しアドベンチャー」を開催しました。

目的は今井地区8ヶ所に設置した防災拠点でもある防災資機材庫の位置を、宝とみなし親子で楽しみながら若い世代の方々に認識していただくために行いました。参加された皆さんは宝のありかでの



謎のキーワードは何の意味かな？ 馬飼地区

キーワードを探し、貼られた文字を組み合わせて謎解きを家族ぐるみで挑戦し、資機材庫をめぐった。

8月18日（日）今井小学校での正解発表では、防災資機材を展示し、利用方法について説明があった。

また、正解した子どもたちには、まちづくり協議会のPRとしてクオカードや参加賞が配られました。

現在は全8ヶ所の防災資機材庫の所在がわかるマップが貼られています。



おばあちゃんと一緒に宝探しに来たよ！ 広浜地区

●第2回防災避難訓練

平成25年10月27日（日）地区住民約300名の参加で防災避難訓練が開催されました。理事・代議員他役員は、午前8時からの準備を始め、参加者は9時には指定4地区に分散集合、人員報告後避難器具を確認、消防団の先導により9時30分に避難開始となる。

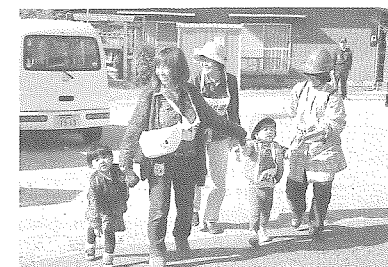
10時に避難完了。非常食試食後、人が土砂に埋まっている状態から身体を傷付けないように最初はスコップ等、最終は救助者の手で掘り出すことと竹・毛布を使った簡易タンカの作り方等を学びました。

最後のまとめでは、児童はお迎えがない限り帰さない。電話の不通時には優先電話が学校、公民館等にある等のお話がありました。

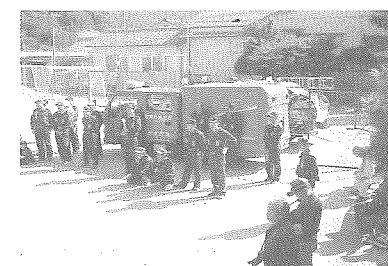
近い将来予測されている東南海地震の災害から身を守るため、参加者も参加できなかった方も、災害は他人事と思わず、常日頃から防災意識を高め、互いに助け合い取り組みましょう。



歩いて避難して来ました。



親子で避難！



今井消防団の皆さん協力ありがとうございます。



笠岡消防署員指導による被災者救出体験

●編集後記

今井地区まちづくり協議会では2年間防災対策について取り組んでいます。事務局という大役をうけ、右往左往しながらその間、多くの報告会や講演に出席してきました。どこへ行っても防災についての住民意識は高くさまざまな活動を行っています。近い将来、日本四大プレートの一つフィリピン海プレートによる南海トラフ地震が懸念されています。先日、防災士の講習に参加し試験を受けてまいりました。その中で今後30年間で南海トラフに関連する地震が起こる確率が60～70%だといわれています。海溝型地震は直下型地震にくらべほぼ定期的に起こるそうです。



この今井地区にも震度6弱の地震が襲うであろうと予測されています。東日本大震災を見てもわかるように、行政、消防・救急も我々と同じ被災者になりかねません。「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に個人や家庭、地域が連携すれば大切な家族の命を守ることができます。これからも、今井地区まちづくり協議会では、住民の皆さんと一緒に「防災」について取り組んで行きたいと思います。

事務局長 山下美津夫